

その他情報提供

令和5年12月5日

国土交通省 四国地方整備局
独立行政法人 水資源機構

洪水調節（吉野川上流ダム群の事前放流及び洪水調節による治水効果）

位置図

吉野川



○令和4年台風第14号の影響により、吉野川上流域で総雨量371mm(9月17日～20日)を観測。

○利水ダムの事前放流や早明浦ダム・富郷ダムによる洪水調節等により、**池田ダム下流（三好大橋付近）の河川水位を約1m低減させ、はん濫危険水位を回避できた**と推定。

事前放流を実施したダム：穴内川ダム・大橋ダム・若宮谷ダム・名頃ダム・長沢ダム

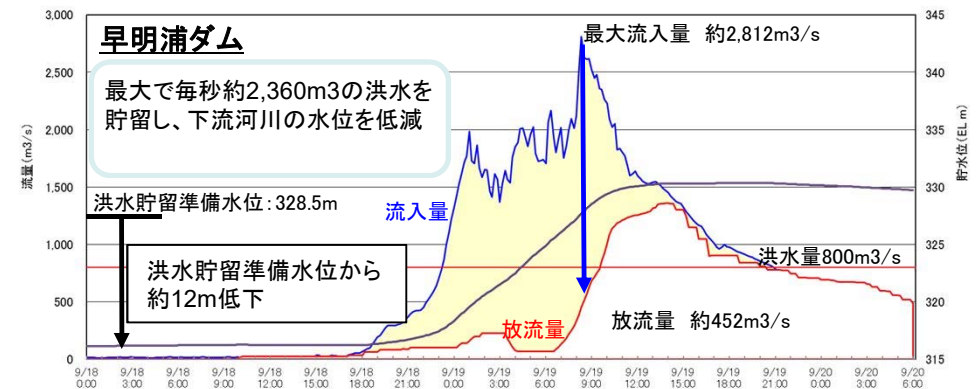
事前に容量を確保済ダム：早明浦ダム・富郷ダム・柳瀬ダム・新宮ダム・三縄ダム・大森川ダム・稲村ダム・松尾川ダム・別子ダム

※アンダーラインのダムは利水ダム

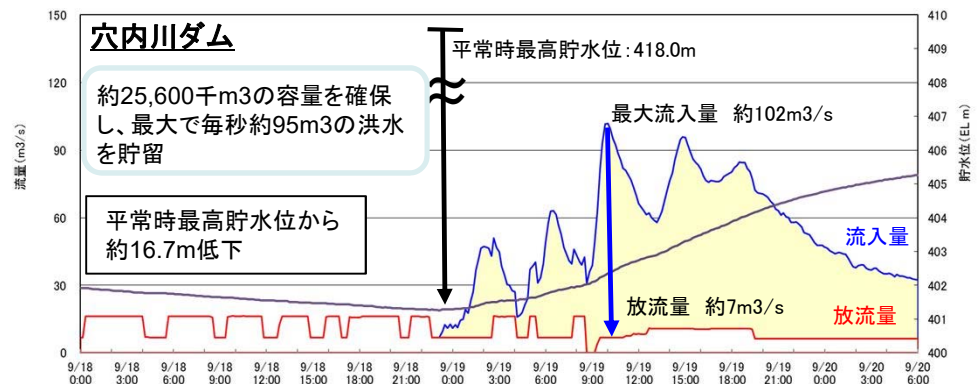
流域図



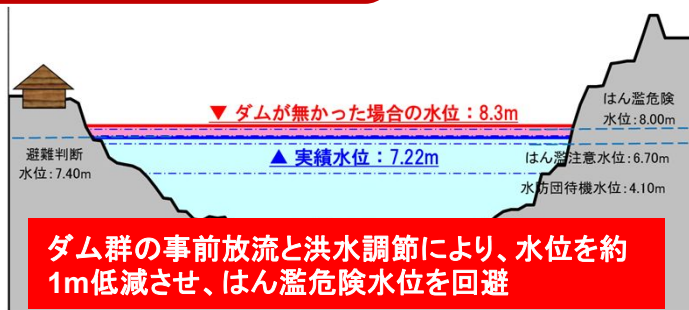
多目的ダムによる洪水調節



利水ダムによる事前放流



水位低減効果(池田ダム下流)

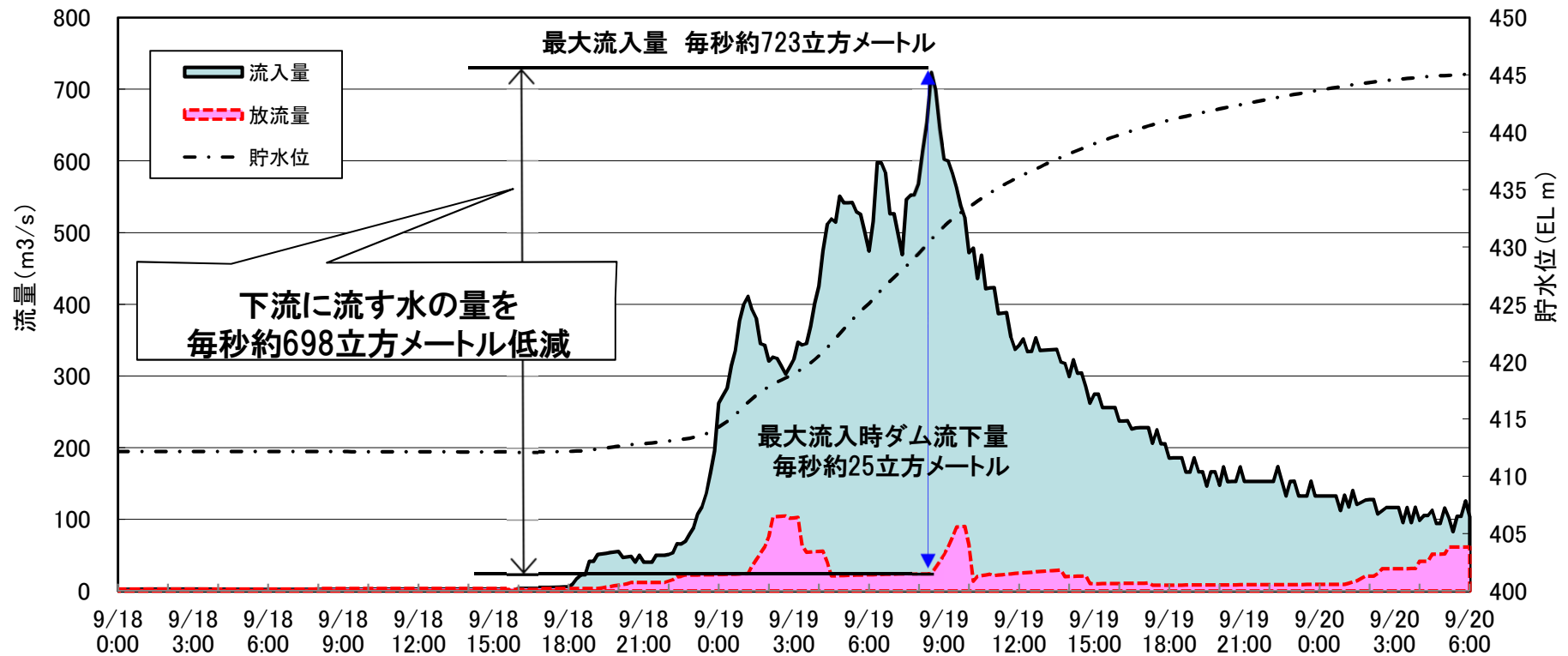


ダム群の事前放流と洪水調節により、水位を約1m低減させ、はん濫危険水位を回避

洪水調節（参考）

○銅山川では渇水のため、上流の富郷ダムでほぼ洪水を貯留しました。

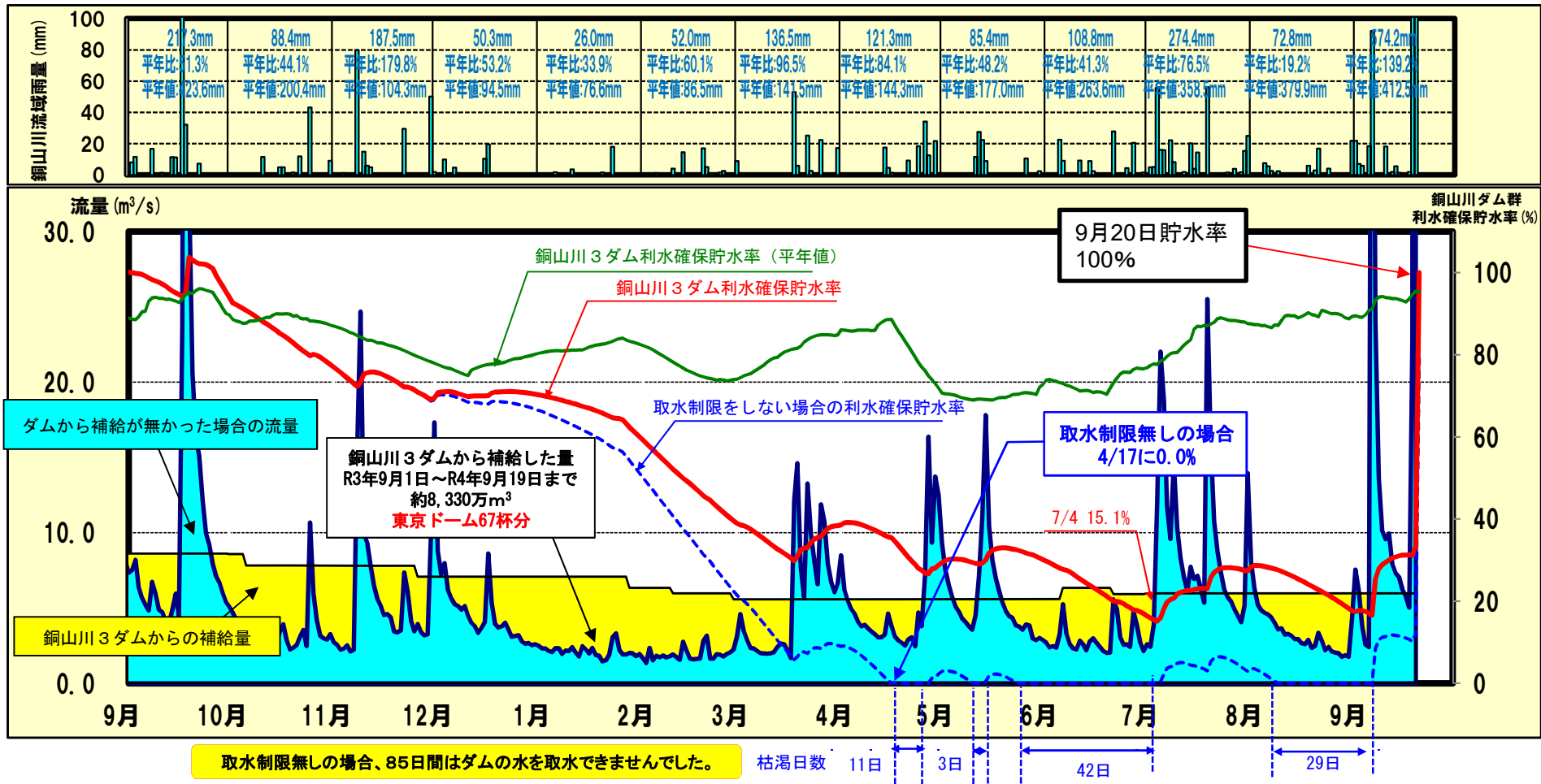
富郷ダム



渇水対応（令和3～4年 銅山川3ダムでの渇水調整）

銅山川3ダム連携運用開始の平成13年以降、最も長い取水制限期間となりました(298日)

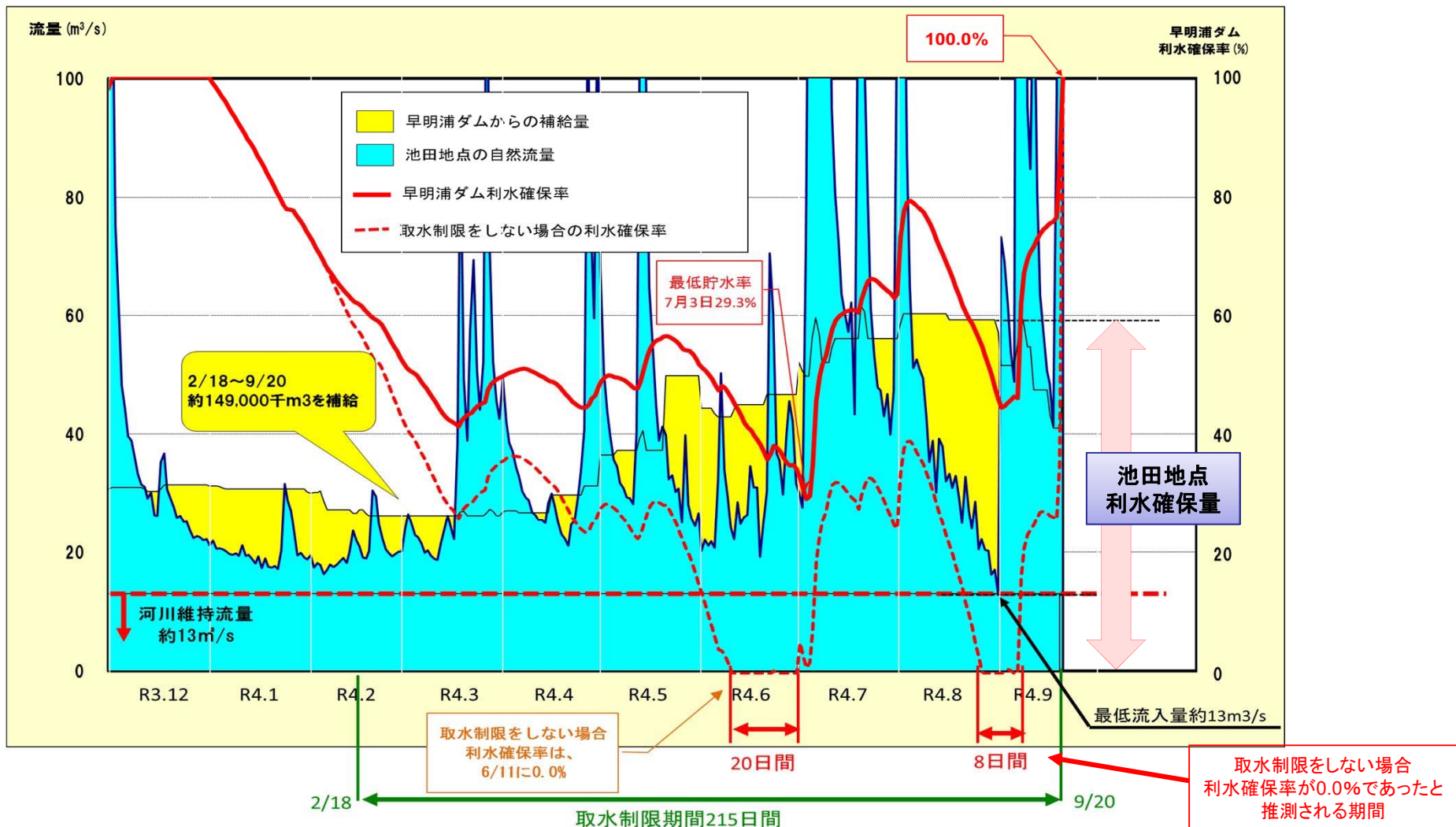
銅山川流域の令和3年9月から令和4年の8月までの降雨量は、平年比の58%と非常に少なく厳しい状況でした。ダムの貯水量は、令和3年9月頃から低下しはじめ、令和4年7月4日に最低の貯水率15.1%(過去最低14.5% H19.6)で過去2位を記録しました。台風14号の降雨により、貯水率100%に回復しました。



渇水対応（令和3～4年 吉野川本川での渇水調整）

取水制限を行うことにより、28日間のダム枯渇を回避

★みなさまの協力いただきながら、取水制限を段階的に行うことで、早明浦ダムの利水貯水率が0%となるダム枯渇を合計で28日回避することができました。
 ★R3.12.1～R4.9.20の間に早明浦ダムからの補給を合計で184日行っており、取水制限をおこないながらではあるものの、安定的に水の供給を行うことで、上水、農水、工水の断水は発生しませんでした。



流域治水の加速化・深化(流域治水プロジェクト2.0の展開)

- 気候変動の影響により当面の目標としている治水安全度が目減りすることを踏まえ、流域治水の取組を加速化・深化させる。このために必要な取組を反映し『流域治水プロジェクト2.0』に更新する。

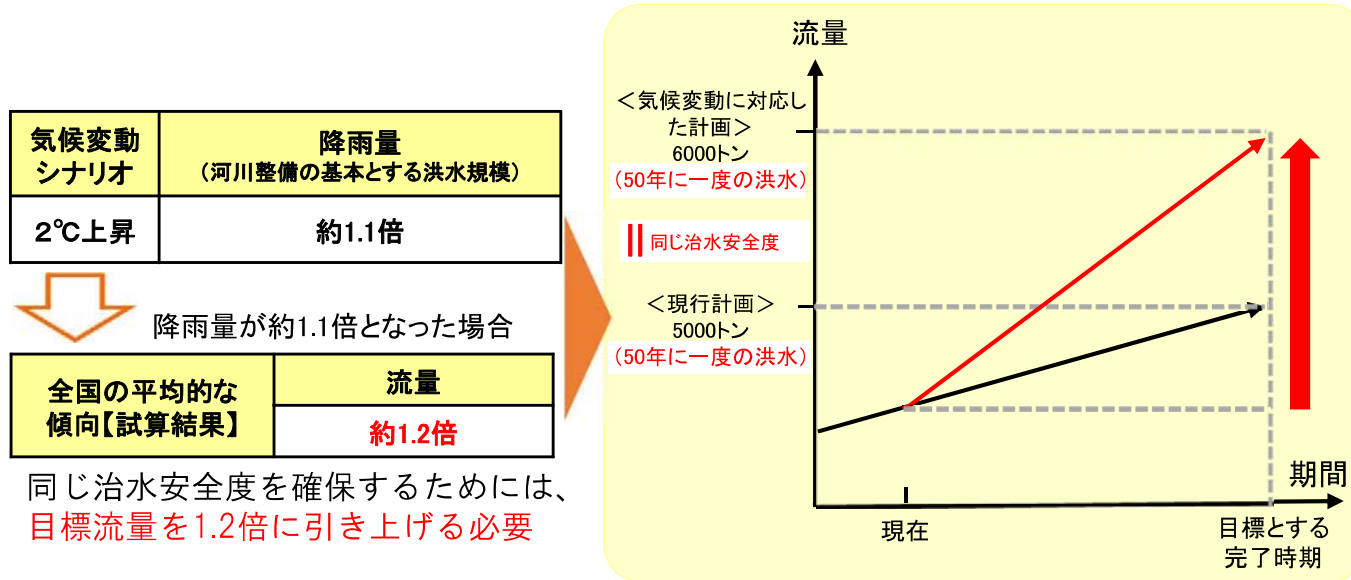
現状・課題

- 2°Cに抑えるシナリオでも2040年頃には降雨量が約1.1倍、流量が1.2倍、洪水発生頻度が2倍になると試算
- 現行の河川整備計画が完了したとしても治水安全度は目減り
- グリーンインフラやカーボンニュートラルへの対応
- インフラDX等の技術の進展

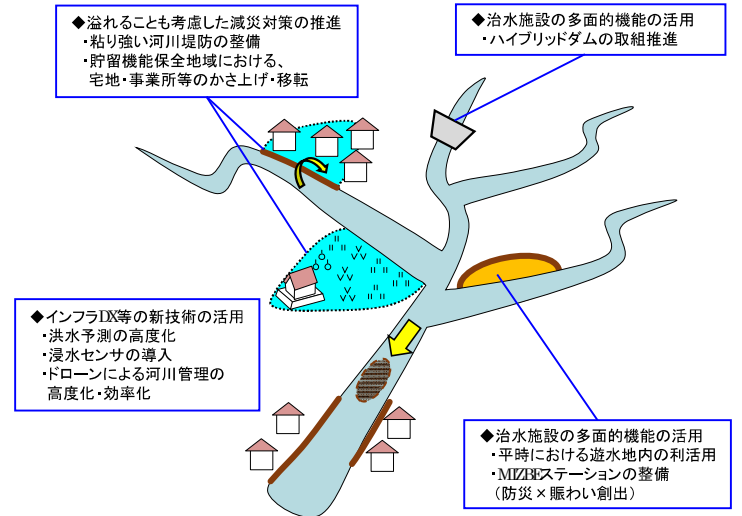
必要な対応

- 気候変動下においても、目標とする治水安全度を現行の計画と同じ完了時期までに達成する
- あらゆる関係者による、様々な手法を活用した、対策の一層の充実を図る

必要な対応のイメージ



様々な手法の活用イメージ



※現行の計画と同じ完了時期までに目標とする治水安全度を達成するため、様々な手法を活用し、集中的に整備を進めることが必要

⇒全国109水系で、上記の対策内容を反映した『流域治水プロジェクト2.0』に順次更新する